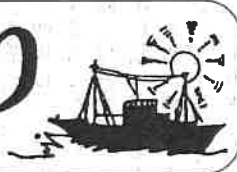


# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会  
〒136-0081 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

## 船首下の青海原で民話を語り紙芝居など上演

原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい。久保山愛吉さんが亡くなって四十五周年の九月二十三日、第五福竜丸展示館で多彩な催しが行なわれました。

館の前の広場の久保山愛吉記念碑にはりんどうの花が久保山忌句会に参加した人々の手で献花され、碑の横には久保山すずさんが生前大切に育て、いまは碑によりそうように移植されたばらが赤い花を一輪咲かせていました。

カチカチカーン、十時半、拍子木の音と共に「第七回平和を語る



紙芝居「とびうおのぼうやはびょうきです」をみる

第五福竜丸の集い」(同語る会主催)が始まりました。船首の下、大海原のように青いシートが敷かれた特設会場で、朗読、紙芝居、民話の語りなどが次々に演じられます。

堀田貴美さんの「ホテルになった兵隊さん」の朗読に一時時間が一九四五年の知覧に戻ったかのよう。稲葉喜久子さんはもんへ姿で現代昔話「玉の声」を、右手和子さんは紙芝居「とびうおのぼうやはびょうきです」を、静かに語りかけるように語ります。大石又七さんも「まぐろ塚について」お話をしました。川

## 核兵器廃絶を 9・23福竜丸の集い

館内の「集い」開始に呼応するように近くの夢の島体育館の会議室を会場に東京原水協・江東原水協共催の「一日も早くエンジンを夢の島へ、核兵器廃絶を、9・23第五福竜丸の集い」が八十名余が参加してひらかれました。

元気象研究所研究員増田善信さんが「第五福竜丸は何を語るか、核兵器―最大の環境破壊をもたらすもの」と題して講演、協会からは山村茂雄理事が挨拶しました。大石又七さんも事件の体験と思いを語りました。第五福竜丸エンジンの船と一

崎の先生方十数名による美しい女性合唱も、雨宮すみえさんほかのバイオリンに合わせた独唱もあり、プログラムは午前午後二回五時間余におよぶ豊かさ。日本こどもを守る会中村博さんの名司会で会場は拍手にあふれ、展示館を訪れた家族連れや若者も熱心に聴き入りました。

西日に船が輝くよう色付きはじめのころ、松島よしおさん・花岡かよ子さんほかバンドのメンバーのギター、マンドリン、ホルンなどの演奏と歌がはじまり、船に染み込んでいくかのような音色にみんな時間を忘れ、ききほれました。

体となった展示がやっと実現することになったことも報告され、今後も一層保存運動、展示館を展覧させる諸運動を上げようとの決意が話しあわれました。つどい終了後みんなが展示館に移動、公園で憩う人々にも声をかけつつエンジン展示予定地を視察し、記念碑に白菊の花を献花しました。

小塚さんのたたかいに支援を午後一時、半船尾の一角で平和と軍縮をめざす全国連絡会が主催して「9・23学習会」がはじまりました。

た。三十人近い若者たちが集い、大石又七さんを囲み、共に進めてきたマグロ塚を作る運動の実りと今後の運動を話し合い、いま第五福竜丸乗組員小塚博さんが要請している「船員保険医療費再適用申請」の運動への支援連帯のについて真剣な討論を進めました。

福竜丸と「海図」を詠む

久保山忌句会はもう第十九回、昨年は展示館休館のため三崎での句会でしたが、ふたたび夢の島の母港に帰り、早朝から句題をさぐりつつ展示館に集合、新たに展示された「第五福竜丸の海図」についての講義を聞き、館内から秋空一枚の夢の島と句作を重ねつつ近くの江東区文化センターに移動、一人二句の献句、披露、選句、批評を行いました。名句がたくさん生まれましたが、夕方近く今年の「第五福竜丸特別船員証」に石川貞夫さんの一句を選出し船員証にふさわしい手作りの表彰状と記念のメダルが贈られました。

被曝海図垂直に立ち秋暑の胸かけつけた大石又七さんの話をひきこまれるように聞き、大石さんを激励し慰労するように「懇親会」がもたれました。

## 第五福竜丸元乗組員小塚博さんの支援を

埋田 昇 二

今年、ビキニ水爆被災事件の四十五周年にあたります。

久保山愛吉さんのご命日にあたる九月二十三日には、今年も三・一ビキニデー静岡県実行委員会が主催する「九・二三故久保山愛吉氏墓参道焼津行動」が行なわれます。

JR焼津駅から出発する献花墓参行進と弘徳院の久保山愛吉の墓前で行なわれる「墓前の誓いのつどい」では、数年前から久保山愛吉さんをはじめすでに亡くなられた十一名の第五福竜丸乗組員の死を、さらに全国のビキニ水爆被災者の死を悼みつつつどいを持つこととしています。

今年の「九・二三焼津行動」は、核兵器のない二十一世紀をめざして大きな成功をおさめた原水爆禁止九九年世界大会の国際会議宣言をはじめ採択された諸決議実践の県下初の集会として開催し、明年の二〇〇〇年三・一ビキニデー成功の展望をきりひろく行動として開催されます。同時に、今年の「焼津行動」では、ビキニ水爆被災事件後放置されてきた第五福竜丸元乗組員小塚博さん

の「船員保険医療費再適用申請」運動の前進を起点としてビキニ被災者の援護措置実現の運動を大きく発展させる契機となる集会として開催されます。

亡くなった第五福竜丸元乗組員は、ほとんど全員が肝臓ガンなどの肝臓疾患で亡くなっており、小塚さんをふくむ生存中の元乗組員十二名の大多数が被爆後の入院中の輸血が原因のC型肝炎に感染し、不安な日々を送っています。日本政府は、ビキニ事件によって巻き起こった原水爆禁止の世論の国民的な高まりを鎮静化させようとして、アメリカ政府の水爆実験による被害補償の法的責任を不問にし、乗組員の合意もないうままに追加の補償を放棄する「政治決着」をはかりました。

第五福竜丸乗組員たちは、遠洋漁業の漁師として生きる夢を断たれるとともに、放射線被爆による人体への被害、急性放射能症の時期に受けた輸血による被害、そして被爆の後遺障害にたいする補償を一切閉ざされたという人権への被害の三つの苦難を背負

っています。第五福竜丸の乗組員たちは、明らかに原水爆の被害者でありながら、広島・長崎の被爆者が不十分ながらも受けている援護措置をも全く受けられないでいます。

小塚博さんは、昨年九月、最低限の医療保障として「船員保険職務上療養給付の再適用申請」を静岡県に提出しましたが、今年一月被災当時の傷病は小塚さんが昭和三十二年三月の時点で再び漁師として就労していることで、「社会通念上治癒した」として不承認処分を通知してきました。小塚さんはこの決定を不服として、同三月県社会保険審査官に対して審査請求を行いました。が、無情にも再び棄却されました。いま、わたしたちは小塚さんを支援する五十人以上の代理人とともに、再度厚生省社会保険審査会に対して再審査を求めて運動を開始しています。小塚さんの請求は、生きるための最低限の要求であるとともに、第五福竜丸乗組員をはじめ核実験被害者の人権回復のたたかいであり、長崎原爆松谷訴訟や京都原爆訴訟とも通ずる重要な意義をもつたたかいであると考えています。どうか、全国のみなさんのご支援をよろしく願います。

(静岡県平和委員会理事長、三・一ビキニデー静岡県実行委員会運営委員長)

(紹介) 愛知県立田中学校の修学旅行体験記から

修学旅行の二日間、この少年少女らはひたすら東京の街を歩

●東京を歩く

修学旅行二日目、六人の班、計二十四班は、一日中、次の六コースをそれぞれ歩いた。

●展示館訪問の感想文

展示館を訪れた六人の少年少女はいくつかの質問を用意してきた(別項)段。そして驚くほどに静かで礼儀正しかった。

●共生の社会をめざして努力する人々に学ぶ体験学習

修学旅行二日目、二十四の班は都内二十三の職場を訪問「一線の人の話を直接聞き考える」

訪問先は一見脈絡がないようだが太い背骨が一本入っている。

感想文は新鮮な驚きと自らの将来をさぐるさわやかさがつづられる。

- ① 墨田区役所 区役所と住民が進める雨水利用
- ② せたがや環境フォーラム
- ③ せたがやトラスト協会
- ④ 環境ジャーナリスト中村正子
- ⑤ 鹿島建設技術研究所
- ⑥ 人権と福祉を自分の問題として考える
- ⑦ 長寿社会文化協会
- ⑧ 在宅介護サービス
- ⑨ 中国大使館
- ⑩ 韓国大使館
- ⑪ 第五福竜丸展示館

ぶ未来の平和―失敗から学んで、平和な未来を作っていく

- ⑫ 国際協力事業団
- ⑬ 海外援助をする日本財団
- ⑭ 東京大学農学部研究室
- ⑮ 全日空機体センター
- ⑯ 全日空機体センター
- ⑰ 日立中央研究所
- ⑱ ジオ・サーチ
- ⑲ 小原工業
- ⑳ 岡本太郎記念館
- ㉑ 東京国立文化財団研究所

参考V●展示館に用意されたきた「質問」

- ① 被曝したときの辺りの様子は
- ② 被曝と気づいたときの国民の行動は
- ③ 毎年三月一日には何かしているか
- ④ 国の指定区外で操業していたとあったがなぜか
- ⑤ 急性放射能症とは
- ⑥ 今何のためにどんな活動をしているか
- ⑦ 活動が始まったきっかけは
- ⑧ 今までよかったと思うことは
- ⑨ これはだめだったと思うことは
- ⑩ どんな問題があり解決してきたか
- ⑪ 現在の問題をどう解決していくか
- ⑫ 日本はどのように変わってきたか
- ⑬ 日本はどのように変わっていくか